

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成26年9月18日(2014.9.18)

【公表番号】特表2013-531525(P2013-531525A)

【公表日】平成25年8月8日(2013.8.8)

【年通号数】公開・登録公報2013-042

【出願番号】特願2013-514414(P2013-514414)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/05 (2006.01)

A 6 1 B 5/0408 (2006.01)

A 6 1 B 5/0478 (2006.01)

A 6 1 B 5/0492 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/05 B

A 6 1 B 5/04 3 0 0 J

【手続補正書】

【提出日】平成26年7月31日(2014.7.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 0】

いくつかの実施形態では、複数の周波数および所望のPARすなわち単位元に近いPARによる励起は、擬似ランダム系列を生成することによって構築される。いかなる理論にも拘束されるものではないが、fsのサンプリング時に生成される長さLの擬似ランダム系列が、fs/L刻みで0(DC周波数に対応する)～fs/2のエイリアスされていない離散周波数音(discrete unaliased tones of frequency)を含有することは公知である。個別の音の位相が-_-+__にわたって均一に分散される間、各周波数(DCを除く)における電力は等分布される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 2 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 2 1 2】

【化4】

$$\cos(\theta) = \frac{\text{マーカ間の見かけの距離}}{\text{マーカ間の実際の距離}} \quad (4)$$

線形レイアウト内の2つのマーカ間の実際の距離67は、演繹的に絶対値として分かる。しかし、2D画像から行われるすべての測定は、典型的には、スクリーンなどの適切な表示媒体上のピクセルの数に関して確認される。ピクセルに関して測定された距離を実世界の寸法(ミリメートルなど)に変換することが必要とされている。ピクセルのミリメートルへのマッピングは、3Dマッピングを計算するのに必要とされる。このマッピングは、X線スキャナによって使用されるピクチャの解像度、使用されるX線のズーム倍率などの、使用される画像診断法に固有の種々のパラメータに依存する。1つの例示的な実施形態では、ピクセルからミリメートルへのマッピングは、(i)ズームおよびピクチャ解像度(行および列)の撮像デバイスから取得されたX線画像、(ii)マーカ間隔が演繹

的に分かる任意の平面上に置かれた「基準パッチ」の2Dピクチャの分析、のうちの少なくとも1つによって得られることができる。行および列に沿ったパッチマーカ距離および行と列の間の角度を測定することによって、実際の長さ（たとえば1mm）あたりのピクセルの数を導出することが可能である。